

# 林木遺伝資源情報

第8号 - 4 2005.9  
独立行政法人 林木育種センター



林木遺伝資源保存林シリーズ No.10

## イチイ *Taxus cuspidata* Sieb. et Zucc.、カヤ *Torreya nucifera* (L.) Sieb. et Zucc. の林木遺伝資源保存林

林木育種センター 遺伝資源部 星 比呂志

### 1 はじめに

イチイは、イチイ科の常緑高木で、東シベリア、サハリン、千島、中国東北部、朝鮮半島及び日本に分布します。日本では、北海道から九州（南限は大隅半島の高隈山）まで分布しますが、北海道では平地に生育し、南日本では標高の高い場所に生育する冷温帯性の樹木です。おおむね単木状に生育していますが、北海道では時に群生します。幹の下部が地をはって低木状となり葉がらせん状につくものをキャラボクといい、庭木としてよく植えられ、イチイの変種とされています。鳥取県の大山に自生するものは、特にダイセンキャラボクと呼ばれ、国の特別天然記念物に指定されています。イチイの材は大変強く緻密で、彫刻、細工物、机の天板等に利用されます。

カヤもイチイ科の常緑高木ですが、イチイと異なり暖温帯性の樹木です。分布は日本では本州（岩手・山形県以南）、四国、九州、屋久島、対馬で、ほとんどの場合、林中に散生しています。日本国外では済州島のみに分布します。日本海側には、多雪気候に適応した樹体が小型のチャボガヤという変種があります。このほか、種子の形や大きさ等の違いによりいくつかの変種又は品種が知られており、これらの多くは国等の天然記念物に指定されています。カヤの材は木理が密で保存性が高いため、器具材、建築材、浴室用材などに利用されています。また、碁盤として古くから賞用されています。

イチイもカヤも、古くから人間に利用されてきた樹種ですが、近年その資源量が減少しています。また、両樹種では変種等も含め多くの天然記念物が指定されていますが、大半が老齢木となっています。このようなことから林木育種センターでは、両樹種を重要な収集・保存対象樹種と位置づけ、全場で収集・保存に取り組んでいます。

また、北海道育種場では、北見イチイ22林木遺伝資源保存林において、北海道森林管理局と連携して、生息域内保存技術の開発に取り組んでおり、この成果の一部は本誌7号 - 5に紹介しています。

### 2 林木遺伝資源保存林の現況

イチイ、カヤの林木遺伝資源保存林について、育種基本区別森林管理局別の設定箇所数と面積を表 - 1に、設定箇所の位置図を図 - 1に示しました。

設定箇所数は両樹種をあわせて13箇所、冷温帯性樹種であるイチイは北海道育種基本区内に4箇所、暖温帯性樹種であるカヤは東北～九州育種基本区内に9箇所が設定されています。

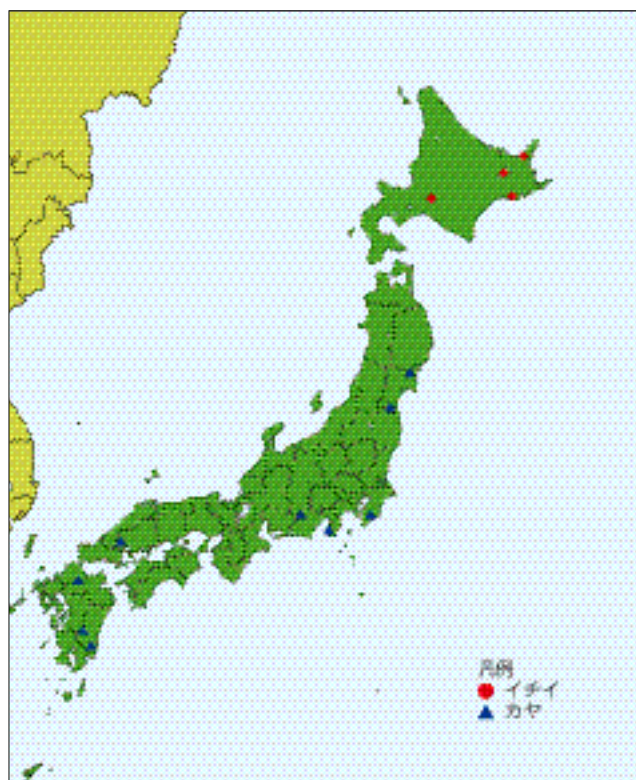


図 - 1 イチイ、カヤの林木遺伝資源保存林位置図

表 - 1 イチイ、カヤの林木遺伝資源保存林の設定箇所数と面積

育種基本区	森林管理局	イチイ		カヤ	
		箇所数	面積 ha	箇所数	面積 ha
北海道	北海道森林管理局	4	53.31		
東北	東北森林管理局			2	22.12
関東	関東森林管理局			3	201.69
関西	近畿中国森林管理局			1	14.32
九州	九州森林管理局			3	89.65
合 計		4	53.31	9	327.78
全体に占める割合		1.2%	0.6%	2.7%	3.6%

【お知らせ】 林木育種センターでは、林木遺伝資源を試験研究用に種子、花粉、穂木、苗木などで配布しています。厳密に品種・系統が管理されており、皆様の研究材料として最適です。価格は1点あたり消費税込で3,349円です。詳しい内容や入手方法につきましては、本誌裏面に記載のホームページをご覧ください。メールまたは電話でお問い合わせください。

### 3 代表的なイチイ・カヤの林木遺伝資源保存林

以下に代表的なイチイとカヤの林木遺伝資源保存林を紹介します。

#### [ 北見イチイ22林木遺伝資源保存林 ]

イチイは本数で全体の14%、材積で16%ほどで、トドマツやミズナラと混交していますが、イチイの密度がかなり高い場所もあります。イチイの樹高、胸高直径とも4箇所の保存林の中では最も大きくなっています。最大の個体では、胸高直径60cm、樹高15mに達し、樹齢は300年以上と推定されています。

所在	北海道斜里郡斜里町 北緯44°00' 東経144°58'	網走南部森林管理署1377そ 林小班
地況	面積：7.65ha 標高：100m	温量指数 54 降水量 1,095mm/年
林況	立木 イチイ：平均胸高直径28cm、平均樹高10m、 170本・71m <sup>3</sup> /ha	稚幼樹 イチイ：100本/ha



写真 - 1 北見イチイ22林木遺伝資源保存林

#### [ 東京モミ・ツガ・カヤ5林木遺伝資源保存林 ]

平均胸高直径28cm、平均樹高12mで、カヤの保存林全体の中では、やや大きい部類に入ります。モミ・ツガが優占する中に、カヤが点在しています。成木の本数はやや少ないですが、稚幼樹の数は成木の数の割には多くみられます。

所在	千葉県君津市笹 北緯35°11' 東経140°06'	千葉森林管理事務所60い <sub>1-2</sub> 、 ほ、63い、は、に <sub>1-2</sub> 、64い林 小班
地況	面積：170.29ha 標高：180m	温量指数 110 降水量 2,220mm/年
林況	立木 カヤ：平均胸高直径28cm、平均樹高12m、20 本・8m <sup>3</sup> /ha	稚幼樹 カヤ：166本/ha



写真 - 2 東京モミ・ツガ・カヤ5林木遺伝資源保存林

#### [ 熊本ケヤキ・スギ・モミ・ツガ・カヤ1林木遺伝資源保存林 ]

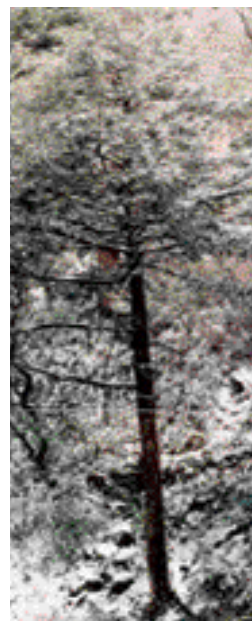


写真 - 3 熊本ケヤキ・スギ・  
モミ・ツガ・カヤ1  
林木遺伝資源保存林

ケヤキ、スギ、モミ、ツガを主体とする林で、この中にカヤが点在しています。平均胸高直径は26cm、平均樹高は11mで、カヤの保存林全体の中では、平均～やや大きい部類です。稚幼樹の数は1ヘクタール当たり300本とやや多くなっています。

カヤは天然状態では林分中にまばらに生える性質があるので、保存個体数を確保するため、前述した東京モミ・ツガ・カヤ5林木遺伝資源保存林と同様、大きい面積を指定して保存しています。

所在	福岡県田川郡添田町 北緯33°27' 東経130°55'	福岡森林管理署3068い、ろ、 は、ほ、へ林小班
地況	面積：81.26ha 標高：950m	温量指数 70 降水量 1,819mm/年
林況	立木 カヤ：平均胸高直径26cm、平均樹高11m、8 本・2m <sup>3</sup> /ha	稚幼樹 カヤ：300本/ha